

## 令和7年度「こくぶんじ青空ひろば」報告動画

### 【スライド1】

こくぶんじ青空ひろば、2025 年度の事業報告を行います。

### 【スライド2】

実施概要です。市内の 6 か所、窪東公園、けやき公園、並木町公園、西恋ヶ窪若松公園、日吉町なかよし公園、元町公園において、水曜日 10 時から 17 時、遊び場を開催。

北町公園、本多わかば公園では火曜日、こばと公園、光町もみじ公園では金曜日、10 時から 12 時に開催しています。

午前 2 名、午後は 3 名のスタッフ配置になります。

熱中症対策として導入した6月、7月、9 月のサマータイムが利用者から好評でした。

### 【スライド3】

年間活動実績です。開催回数 558 回、利用者数は 14370 人でした。内訳は、小中学生がほぼ半分、残りの半分が幼児と大人が占めました。

その他の活動として、放課後子どもプラン、親子向けの外遊び講座、夕方から始まる夕暮れひろば、児童館での土曜日青空ひろばにおいて、計 321 人の参加がありました。

### 【スライド4】

青空ひろばは、子どもや保護者が地域の中で誰でも立ち寄れる居場所づくりを目指しています。

午前は親子が安心して過ごせ、親子同士のつながりづくりを促進、午後は様々な遊びを通して子どもたちの放課後の居場所として機能しました。

午前も午後も異年齢交流や異世代交流、地域との関わりを育んでいます。

### 【スライド5】

0 歳から公園で遊べることを、伝えています。

ござを敷いてゆっくりできる空間を準備し、赤ちゃんも安心して過ごすことができ、「歩けない時期から利用できる外遊び場」として貴重な場になっています。気持ちよさそうにしている赤ちゃんを見て母も嬉しさを感じたり、スタッフや利用者との何気ない会話の中で、リフレッシュできることがとても大切と考えています。

#### 【スライド6】

遊び場は、同年代の子と遊べるのが刺激になる、他の親子と関われる、地域の情報交換ができると、地域とのつながりの場として機能しています。

話せる人がいて嬉しい、孤独感が減る、家でもんもんとしていた自分自身の寄りどころ、ワンオペ育児の支えになっているなどの声も聞かれ、子どもの遊び場であると同時に保護者支援の役割も大きいと感じています。

#### 【スライド7】

また、遊び場としてだけでなく、保護者の悩みや不安を気軽に相談できる場としての役割も担っています。

カウンセラーの相談件数は 125 件、保護者自身の悩みや上の子のことなど兄弟の悩みが多くありました。公園で子どもを遊ばせながら、気軽な相談ができています。

#### 【スライド8】

チャンバラや鬼ごっこなどの身体を使った遊び、コマやめんこなどの昔遊び、季節の素材を使った作り物や水遊びなどの自然遊び、自由な発想で作る工作など、遊びの種類は数えきれません。

子どもたちは集団でにぎやかに遊んだり、一人で静かな時間を過ごしたり、スタッフとおしゃべりしたり、自分らしく過ごさせています。時に失敗を経験したり、わからないところは教えあったり、友達とぶつかったりしながら、遊びの中で少しずつ成長している姿が見られます。

#### 【スライド9】

子どもたちは繰り返し遊びに来る中で、学校や学年も超え、自分の遊びや関係性を自然に広げていきました。

また、おやつ準備を手伝う、片付けを一緒にするなど、スタッフに頼られ役割があ

ることで、自分の場所を見つけ、生き生きする子どもたちもいます。

単なる「放課後の居場所」というよりも、「心の居場所」にもなっていることを感じます。

#### 【スライド 10】

公園での活動は、様々な地域の方との交流があります。

子どもたちに声を掛けいろいろアドバイスをしてくださる方、子どもを見ると元気になると言ってくださる方、良い相互作用がいくつも生まれています。「がんばってるね、おつかれさま」と近所の方が声を掛けて下さるのは私たちの励みになります。

青空ひろばの活動が地域と人をつなぐ接点になっています。

#### 【スライド 11】

活動は、市民サポーターやボランティア、近隣住民の方々に支えられています。

読み聞かせや紙芝居、青空ひろばのキャラクター製作、保護者の話し相手、子どもたちとの遊びや活動のサポート、準備や片付けの手伝い、新しい遊びの提案など、それぞれの得意なことや関心にあった多様な関わり方があります。

こうした地域の方々とのつながりが、青空ひろばの活動をより豊かで温かいものになっています。

#### 【スライド 12】

今年度は広報活動に力を入れました。

青空ひろばのない地域で遊び場を開き、活動を知ってもらおうと、放課後子どもプランに出向きました。0歳児親子への広報のため、講座で外遊びの楽しさを伝えたり、父親に向けて、土曜日に児童館で青空ひろばを開催しました。

近くの公園に遊びに来た親子や小学生もいて、一定の効果はあったと思われます。

今後も来ていない層へのアプローチは続けていきたいと考えています。

#### 【スライド 13】

子どもアンケートから、また来たいと思える場になっていて、子どもたちにとって必要性があるのがわかります。

毎週来ることを楽しみにしている子や、スタッフとの会話を求めて来る子の姿もあり、

安心して過ごせる居場所として機能していると思われます。

#### 【スライド 14】

大人のアンケートでも、満足度が高い結果が出ています。

子どもが伸び伸びと遊べる、家ではできない遊びや自然体験、スタッフへの安心感、親子の居場所や地域交流の場としての役割も大きいことがうかがえました。

「これからも続けてほしい」「毎週楽しみにしている」という継続を望む声が多かった一方で、暑さ対策や遊び道具の充実などを望む意見も見られたので、改善していきたいです。

#### 【スライド 15】

小学生の学区別参加人数です。利用状況を見ると、地域によって差が見られます。ニーズがないというよりも、まだ届いていない可能性があると考えます。

地域による遊び環境の格差は、長年解消できない課題でもあります。

#### 【スライド 16】

遊び場の少ない地域で活動できないか今年度も検討を重ねてきましたが、新たな場所で活動を始めることの難しさも感じています。

現在活動している場所についても、継続していくためには地域の理解も非常に重要です。子どもの遊び場は必要とされながらも、その継続や新規実施が容易ではない現状があります。子育て環境の変化により利用状況も変化していますが、居場所として青空ひろばを必要としている人は確実に存在しています。

また、安心して過ごせる場を維持するためには、子どもたちへの丁寧な関わりも欠かせません。

これからも青空ひろばの特性を大切にしながら、多様な子どもや親子が来れる場として、活動を続けていきたいと考えています。

これで、こくぶんじ青空ひろばの事業報告を終わります。ご清聴ありがとうございました。